

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 浅 池 慶 子 姉 妹

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 1:1 われら主をたたえまし きよき御名をあがめばや

来る日ごとほめ歌わん 神にまし王にます 主のみいつたぐいなし アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、
み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 1:3 み恵みは限りなく 主に頼る子らにあり

み怒りを忍びつつ あわれみをたれたもう 主を愛し主に仕えん アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 6 ニ ケ ア 信 条

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。
我らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきのみ父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の

神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊
によって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架に
つけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座
し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わること
がない。／ 我らは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出
で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖
なる公同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人の
よみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。 アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 8・15集会を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書9章18～27節 (新約聖書122頁)

説教・祈祷 「命がけの信仰告白」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 51 主にありてぞ

主にありてぞ われは生くる われ主に 主われにありて安し
主にありてぞ われ死なばや 主にある死こそは命なれば
生くるうれし 死ぬるもよし 主にあるわが身の幸はひとし
我主に、主は 我にありて あめこそとこよの我が家となれ アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 65 父・御子・御霊のおお御神に

ときわに絶えせず 御栄えあれ 御栄えあれ アーメン

* 祝 祷

後 奏 (黙祷)

報 告 門脇陽子長老 (司会・受付 次週：古澤純一長老)

本日 受付 1階：森永美保執事 2階：藤原宏章執事 / 動画：大日南悠兄弟 録音：森川莞太兄弟
次週 受付 1階：長尾牧執事 2階：加藤良明執事 / 動画：大日南信也執事 録音：雨宮信長老

I あなたがたは私を何者だと言うのか

18節「群衆は私のことを何者だと言っているか」。これが、まず神の御子からの問いかけ、天からの啓示です。それは「イエスがひとりで祈っておられた時」です。祈りというのは、人間が神に祈るのであって、神が神に祈るのではありません。ですから、ここでは、神の御子が父なる神に祈っているのではないのです。私たちと同じ人間になられたイエスが神に祈っておられるのです。

人間イエスとなって、救い主キリストの働きをすることは、簡単ではありませんでした。嵐を静め、悪霊を追い出すことは、神の御子の神わざですから、難しくはないでしょう。人間となって、人間の罪のために十字架に架かることは簡単なことではありませんでした。さらに、人間の信仰のために正しい信仰告白を導くことは、簡単なことではありませんでした。いろんな噂の中で、群衆が間違ったメシア像に向かうよう、サタンは働きかけていたからです。

だから弟子たちを誤った信仰告白から守ることは、実は難しいことでした。サタンはイエスのことを「神の子、神の子」と言って、神の子が人間になったことの意味を分からなくさせようとしていたからです。ですから、「イエスがひとりで祈っておられた時」は、ここだけではありません。しばしば群衆から退いて祈っておられました。人間イエスが神の子キリストとして、正しくミッションを成し遂げるためでした。

「群衆は私のことを何者だと言っているか」と尋ねられて、弟子たちは答えました。19節「洗礼者ヨハネだ」、「ほかに預言者エリヤだ」、「誰か昔の預言者が生き返ったのだ」と言っていますと。「それではあなたがたは私を何者だと言うのか」と20節。これが、神の子イエス・キリストからの呼びかけですが、これ自体、神の啓示です。

イエスの問いに答えたのはリーダー格のペトロでした。「神からのメシアです。」正解でした。正しい信仰告白なくしてクリスチャンは生まれません。イエスを「神からのメシア」と告白しない所に、キリストの教会は立ちません。イエスを偉大な宗教家と言う程度ではキリスト者もキリスト教会も起こらないのです。そして、人間の告白は、神の言葉によって養われなければ、正しい告白としてあり続けることはできませんから、告白者は聖書を学び続ける必要があるのです。今日の弟子も。

II 神からのメシア

「神からのメシアです」というこの告白者は、告白者たちです。イエスは「あなたがた」と聞かれたからです。だから、ペトロは弟子たちを代表して告白したのであって、ペトロだけの告白ではありません。つまり、ペトロの告白は、今日に至るまで、全クリスチャンの告白です。教会はイエスをキリストと告白する者たちの集まりなのです。

教会は、何の上に建てられるか、これをマタイ福音書から補足しておきましょう。ペトロの告白の内容に関してルカは触れないのですが、マタイが詳しく語ってくれます。「あなたこそキリストです」と告白したペトロに、イエス様は「この岩(ペトラ)の上に私の教会を立てよう」と言われました。

ローマ・カトリック教会は、この岩とはペトロのことだから、ペトロの上に教会が立て

られるのだから、ペトロの後継者の上にキリストの教会が立てられる、としてきました。そして、それはローマの教会の司教＝ローマ法王だとしてきました。

従来のプロテスタントは、ペトロではなく、ペトロの信仰告白だとしてきました。「あなたこそキリストです」という信仰告白の上に教会は立てられるとしてきました。最近、あるプロテスタントの聖書学者は、岩とは神の啓示だと言いました。

ペトロは、「あなたこそキリストです」と言いながら、イエス様が「メシアは死んで復活する」と言われると、そんなはずはないと否定しました。こんな中身のないキリスト告白の上に教会を立てることなどできない。確かなのは、ペトロの告白を現したのは「人間ではなく、私の天の父なのだ」と言われた主イエスの言葉にある。つまり、啓示だ。のちにキリストの十字架と復活のあと、中身が伴うようになった。だから、教会は神の啓示の上に立てられる、と言うのです。

最近のあるプロテスタントの牧師は、聖書啓示・信仰告白・信仰者、どれが欠けても岩にならないのではないかと言いました。すなわち、ペテロの告白であるが、告白するペトロ自身でもある。告白と告白者は切り離せない。信仰告白はあるが信者はいない教会など考えられない。そしてもちろん、キリスト教会とキリスト者は、聖書のみの上に立つのです。礼拝では、まさに神の言葉と人間の賛美・告白が交流しています。啓示・告白・告白者、この三者は切り離せません。この三つが生きた関係でしっかりと組み合わせられていると、キリストの教会となります。

III メシアの秘密

特に癒された人、悪霊を追い出していただいた人に、主イエスは「誰にも言わないように」と命じられました。メシアの秘密は、福音書の通奏低音のように、響いています。ここでも、21節「イエスは弟子たちを戒め、このことを誰にも話さないように命じて、次のように言われた。『人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている』」つまり、十字架と復活までは秘密なのです。

世間のメシア待望とは違う、本当のメシアの真相を知るのは、サタンだけでした。ユダヤ人の通常のメシア像は、ダビデ王のイメージです。通常、人間がイメージする救世主は、民族の解放者、国家存亡の危機で活躍する英雄、地球存亡の危機でエイリアンと戦うヒーローです。この世の王様です。神のことを思わない人間的メシア像です。

しかし、神がお与えになるメシアは、罪からの救い主です。神は人間を救うために、罪の代価を支払って永遠の命を与えようとしておられます。そのために、神の御子を人間の姿にしてこの世に遣わされました。だから、イエスはキリストの受難と復活を予告されました。ルカ福音書には書いてないのですが、ペトロはそれを否定しました。しかし、わざと神の邪魔をしようとしているのは人間ではなく、サタンです。だから、ペトロの危ういキリスト告白に滑り込もうとするサタンに対して、「サタン、引き下がれ」と言われました。

IV 自分の十字架を背負って私に従いなさい

ペトロを含む弟子たちに命じられたことは、今日の弟子たちにも命じられていることです。全世界と自分の命を考えてみよ。地球存亡の危機を救うヒーローがいたとしても、地

球そのものが宇宙と共に寿命があり、滅びる定めだとしたら何になるか。ましてや、民族とか国家の救世主がいたところで、世界が滅びたら何になるか。世界と歴史と自分には永遠の意味と価値があるのか。あるとしたら誰が与えるのか。

広い宇宙で小さな一点にすぎない自分。そんな自分が永遠を手に入れるチャンスがあるとしたら、天地宇宙の創造者から以外ではありえない。今まさに創造者から遣わされた救世主が、十字架と復活のわざを成し遂げて、あなたに救いと命をもたらそうとしている。

ペトロたちは、イエスが受難予告されたとき、受難は十分ありうることは承知していました。エルサレムから律法学者・ファリサイ派・サドカイ派が、暗殺計画をもって、次々と来るようになっていたからです。ペトロの否定には、自分の命に対する恐怖感もあったでしょう。イエスは弟子たちの恐怖感をも知って言われました。「私について来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、私に従いなさい」。

私たちの罪のための十字架は、キリストが負ってくださいます。キリストの十字架を負える者はキリスト以外にいません。そこで「自分の十字架」とは何だろうかと考え込んでしまいますが、イエスの言われることは一つです。「私について来たい者は、私に命をかけなさい」。弟子たちの恐怖感を十分知りながら、その一つのことを繰り返して言われました。「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、私のために命を失う者は、それを救うのである。」

「自分を捨て」も、自分のエゴを捨てることだろうかと勘違いしてはいけません。「キリストのために命を失う者となれ」という意味です。もちろん、ペトロが、自分だけは裏切らないと言い張りながら裏切ることをご存知です。弟子たちが皆逃げますが、十字架と復活の後、命をかけてキリストに従う者となることをご存知です。

ここで、ルカは、イエスに従って殉教した者たちがいることを知って書いています。ルカ文書第二巻『使徒言行録』で、そのリストを書く準備もできているからです。すでにキリストの十字架から30年。クリスチャンへの迫害がユダヤ教からローマ帝国になりつつある時です。だから、キリストが弟子たちに言われたことを、パウロの説教からも聞きながら、福音書を書いて語りかけています。キリストを信じる信仰に命をかけよ。キリストに従うゆえに命を失う者は、命を得ることになる。

しかし、信仰に命をかけない者がいることも、イエスをご存知です。だから主は、キリストの言葉を恥じる者、キリストに命をかけない者がいること、裏切り者がいることを予告しておられます。ユダヤ民族の栄光あるメシアを期待して、十字架に架かる恥ずかしいメシアを期待しない者がいました。

今、私たちが置かれている世界も、民族主義と国家主義が非常に強くなっている時代です。今日（こんにち）も、イエスをキリストと告白することは、命がけです。そして実際、主イエスは私たち弟子のために、命をかけてくださいました。